学習英文法研究会

関西支部に研究会ができたのは、1986年6月28日、安藤昭一先生が支部長、多田稔先生が事務局幹事の時代であった。学習英文法研究会は、研究会発足時にできた13の研究会の一つであり、代表は前川哲郎先生だった。1990年10月10日、大谷泰照先生が支部長の時に、「1991年度に10の研究会を設け、どの研究会も2年間活動し、その成果を公表することを原則とする」ことが決まった。1986年に発足した研究会を第1次研究会、1991年度に発足した研究会を第2次研究会と呼んだ。第2次学習英文法研究会の代表には、引き続き、前川先生が就かれた。前川先生が代表を務められたのは13年に及ぶ。研究会の初期の活動に対する前川先生の貢献は多大なものであった。

1992年6月13日に『大学英語教育学会関西支部紀要』第1号が刊行され、第2号から第6号に至るまで、『関西支部紀要』には研究会の活動報告が掲載された。第7号は一般会員からの投稿論文と各研究会の活動報告が掲載されたが、第8号以降は『関西支部紀要』には一般会員の投稿論文のみが掲載されることになった。『関西支部紀要』の編集方針の変更に伴い、学習英文法研究会は、隔月、あるいは月例で開いてきた研究会における発表の概要を『学習英文法研究会研究集録』という冊子を刊行して公表してきた。

学習英文法研究会の歴代の代表者は以下の通りである（敬称略）。

前川哲郎（1986～1998年度）、菅山謙正（1999～2000年度）、岡田伸夫（2001年度）、松浦勉（2002年度）、神崎高明（2003～2004年度）、山本英一（2005～2006年度）、奥田隆一（2007～2008年度）、甲斐雅之（2009～2010年度）、岡田伸夫（2011～2012年度）

学習英文法研究会の活動内容は、各年度の代表の個性に負うところも多かったが、原則的には、①近年の英語学・言語学研究により、どのような知見や洞察が得られたか、②それをどのようにして学習英文法に取り入れたらいいのか、の2点を研究目標としていた。研究会活動の中心は、JACET会員の研究発表を聞き、全員でディスカッションすることであったが、非会員の方に発表していただくこともあった。活動が活発な時代には、隔月あるいは月例で研究会を開催するだけでなく、支部大会でシンポジウムやワークショップを開くこともあった。

以下、近年の研究会活動の一端を紹介する。

2009年度～2010年度においては、代表者の校務等の都合により例会の開催は2度のみであった。第1回例会は、2010年10月2日に京都女子大学で行われた。発表は2件で、中川右也氏（米子工業高等専門学校）の「英語学的観点から学習英文法を考える～仮定法に焦点を当てて～」と八木克正氏（関西学院大学）の「定型表現 *be about* の形成とその意味」であった。第2回例会は、2011年1月15日に関西学院大学梅田キャンパスで行われた。発表は2件で、甲斐雅之氏（京都女子大学）の「*experiential iconicity* と *text type*」と大谷麻美氏（京都女子大学）の「日・英語のインタラクション・スタイル分析から考察する英語教育の課題」であった。いずれの例会も他研究会や学会との重なっていたため参加者は10名前後と少なかったが、中身の濃い議論が展開された。（岡田伸夫、甲斐雅之）